



全国制覇を目標に甲子園での活躍を誓う八学光星ナイン＝25日、青森市の東奥日報社

100回の節目 大優勝旗を

光星ナイン
本社で抱負

第100回全国高校野球選手権記念大会(8月5日開幕)に出場する八戸学院光星高校硬式野球部が25日、青森市の東奥日報社を訪れた。2年ぶりの甲子園出場を喜ぶとともに、夢の舞台での活躍を誓った。

同校は高い攻撃力を武器に、準決勝までの4試合を全てコールドで勝利。決勝では6-4で聖愛を下し、全59チームの頂点に立った。

25日に訪れたのは小野崎龍一校長、安井基悦協賛会長、仲井宗基監督、小坂貫志部長と選手20人。采田正之執行役員編集局長らと対談した。

仲井監督は「厳しい予選を勝ち抜いたことを力に、甲子園で暴れたい。100回の節目に深紅の大優勝旗を持ってきたい」とあいさつ。

ポイントとなった試合を問われると、準決勝の青森山田戦を挙げ「互いにライバルと認め合う関係。打力でねじ伏せることができ、選手の自信になり(決勝の)聖愛にもプレッシャーを与えられたと思う」と述べた。

県大会全5試合で、先頭打者として初回の得点に貢献した近藤俊太選手は「監督にも練習から『先頭が一番試合の鍵を握る』と言われ、強いスイングを意識していた」と振り返った。

長南佳洋主将は「投手陣は経験豊富で、打撃も売りのチーム。守備力もあるので攻守ともリズムをつくれる」とし、目標は「全国制覇です」と力強く宣言した。選手らは30日に本県を出発、現地で本番に向け調整する。

(秋村有香)

を勝ち抜いたことを力に、甲子園で暴れたい。100回の節目に深紅の大優勝旗を持ってきたい」とあいさつ。

ポイントとなった試合を問われると、準決勝の青森山田戦を挙げ「互いにライバルと認め合う関係。打力でねじ伏せることができ、選手の自信になり(決勝の)聖愛にもプレッシャーを与えられたと思う」と述べた。

県大会全5試合で、先頭打者として初回の得点に貢献した近藤俊太選手は「監督にも練習から『先頭が一番試合の鍵を握る』と言われ、強いスイングを意識していた」と振り返った。

長南佳洋主将は「投手陣は経験豊富で、打撃も売りのチーム。守備力もあるので攻守ともリズムをつくれ